



オプション

- AdminConfiguredBot (2 ページ)
- AllowUserCustomTabs (2 ページ)
- BrowserEngineForCustomTab (3 ページ)
- CalendarAutoRefreshTime (3 ページ)
- CalendarIntegrationType (3 ページ)
- Callhistory_Expire_Days (4 ページ)
- ConfigRefetchInterval (4 ページ)
- ConfMediaType (5 ページ)
- Disable_Meeting_SSO_Browser_Cache (5 ページ)
- DisableClientConfigExchangeServer (5 ページ)
- DockedWindowPosition (6 ページ)
- DockedWindowVisible (6 ページ)
- EnableBridgeConferencing (6 ページ)
- EnableCalendarIntegration (6 ページ)
- EnableLoadAddressBook (7 ページ)
- EnableProximity (7 ページ)
- EnableSaveChatHistoryToExchange (7 ページ)
- EnableVoipSocket (8 ページ)
- Exchange_UseCredentialsFrom (8 ページ)
- ExchangeAuthenticateWithSystemAccount (9 ページ)
- ExchangeAutodiscoverDomain (9 ページ)
- ExchangeDomain (10 ページ)
- ExchangeModernAuthentication (11 ページ)
- ExternalExchangeServer (11 ページ)
- HeadsetPreference (11 ページ)
- InternalExchangeServer (12 ページ)
- lastselectedline (12 ページ)
- Location_Enabled (12 ページ)
- LOCATION_MATCHING_MODE (12 ページ)

- [Location_Mode](#) (13 ページ)
- [MacCalendarIntegrationType](#) (13 ページ)
- [multiline1_ringtonename ~ multiline8_ringtonename](#) (14 ページ)
- [RefreshCustomTabsOnNetworkChange](#) (14 ページ)
- [SaveChatHistoryToExchangeOperationMode](#) (14 ページ)
- [Set_Status_Away_On_Inactive](#) (15 ページ)
- [Set_Status_Away_On_Lock_OS](#) (16 ページ)
- [Set_Status_Inactive_Timeout](#) (16 ページ)
- [ShowContactPictures](#) (16 ページ)
- [ShowOfflineContacts](#) (16 ページ)
- [ShowTabLabel](#) (17 ページ)
- [Start_Client_On_Start_OS](#) (17 ページ)
- [StartCallWithVideo](#) (17 ページ)
- [UseBridgeForConferenceCalls](#) (18 ページ)
- [UserBridgeUriAdmin](#) (18 ページ)

AdminConfiguredBot

Cisco Jabber デスクトップ、iPhoneおよびiPadクライアントに適用されます。

企業ディレクトリのボットに割り当てられた Jabber ID を使用すると、Jabber のユーザの連絡先リストにボットが自動的に追加されます。グループ **_BotGroup** は、ユーザの連絡先リストに作成されます。ユーザは、連絡先リストに **bot** を手動で追加することもできます。

例：

```
<AdminConfiguredBot>bot1@example.com;bot2@example.com;bot3@example.com</AdminConfiguredBot>
```

AllowUserCustomTabs

デスクトップクライアント向けおよびモバイルクライアント向け Cisco Jabber に適用されません。

ユーザがクライアントでカスタム組み込みタブを作成できるかどうかを指定します。

モバイルクライアントの場合は、任意の数のカスタムタブを追加できますが、クライアントに表示されるカスタムタブは 10 個までです。クライアントに 10 個のカスタムタブを追加した場合、ユーザはその後にカスタムタブを追加することはできません。

- **true** (デフォルト) : カスタムタブを作成するためのメニューオプションがクライアントに表示されます。
- **false** : カスタムタブを作成するためのメニューオプションがクライアントに表示されません。

例： `<AllowUserCustomTabs>>false</AllowUserCustomTabs>`

BrowserEngineForCustomTab

Windows 版 Cisco Jabber に適用されます。

Jabber は、カスタムタブのデフォルトブラウザエンジンとして **Chrome** を使用します。ただし、一部の展開では、**Chrome** エンジンが適切に機能しない場合があります。

リリース 12.6(2)以降では、**BrowserEngineForCustomTab** を使用してカスタムタブのブラウザエンジンを選択できます。使用できる値は次のとおりです。

- **Chrome** (デフォルト): カスタムタブのブラウザエンジンとして **Chrome** を使用します。
- **IE**: カスタムタブのブラウザエンジンとして **IE** を使用します。

例: `<BrowserEngineForCustomTab>Chrome</BrowserEngineForCustomTab>`

CalendarAutoRefreshTime

版 Cisco Jabber デスクトップ クライアント に適用されます。

統合カレンダーが更新されるまでの分数を定義します。デフォルト値は **0** で、カレンダーは自動的に更新されないことを意味します。この構成キーは、**Google** カレンダーと **IBM Notes** カレンダーを統合する場合にのみ使用できます。

Mac のデフォルト値は **5** で、カレンダーは **5 秒**ごとに自動的に更新されることを意味します。この構成キーは **Exchange** カレンダーの統合にのみ使用できます。



(注) 頻繁に更新すると、IBM Lotus Notes サーバのパフォーマンスに影響することがあります。

例: `<CalendarAutoRefreshTime>0</CalendarAutoRefreshTime>`

CalendarIntegrationType

Windows 版 Cisco Jabber に適用されます。

このパラメータは **Meetings_Enabled** パラメータと連携して機能します。

- **0**: クライアント ユーザーインターフェイスの [会議 (Meetings)] タブでの予定表の統合を無効化しますこのパラメータを無効にすると、クライアント内の [ミーティング (Meetings)] タブは空になりますが、[ミーティング (Meetings)] タブはハブ ウィンドウに残ります。
- **1**: クライアント ユーザーインターフェイスのミーティングタブの Microsoft Outlook カレンダー統合を有効にします。
- **2**: クライアント ユーザーインターフェイスのミーティングタブの IBM Lotus Notes カレンダー統合を有効にします。

- 3: クライアントユーザ インターフェイスのミーティングタブの Google Calendar 統合を有効にします。

Cisco Jabber を再起動して、変更を適用します。

例: `<CalendarIntegrationType>1</CalendarIntegrationType>`



- (注)
- クライアントユーザは、**オプションダイアログのカレンダータブ**の設定を上書きできません。
 - これらのパラメータは、カレンダー統合と連絡先解決のために効果を発揮します。
 - CalendarIntegrationType
 - EnableLocalAddressBookSearch
 - EnableLotusNotesContactResolution

詳細に関しては、*Feature Configuration for Cisco Jabber* ガイドを参照してください。

Callhistory_Expire_Days

すべてのクライアントに適用されます。

通話履歴が削除されるまでの日数を指定します。保存されるレコードの最大数は 250 です。

値が 0 または指定されていない場合、通話履歴には最大数の通話記録が保存されます。最大数は 250 です。

例: `<Callhistory_Expire_Days>2</Callhistory_Expire_Days>`

通話履歴の項目が 250 または指定した期限切れ日数に達した場合、一番古い項目が削除されます。

ConfigRefetchInterval

すべての Cisco Jabber クライアントに適用されます。

Jabber がサーバから最新の設定をフェッチする際の値を時間単位で指定します。Jabber は、指定された値の前後の 1 時間内の再フェッチポイントをランダムに選択します。たとえば、値が 5 の場合、Jabber は 4 ~ 6 時間以内のランダムな時間を選択します。最小値は 4 です。

デフォルト値は 8 時間です。

例: `<ConfigRefetchInterval>5</ConfigRefetchInterval>`

ConfMediaType

すべてのクライアントに適用されます。

クライアントが Cisco Collaboration Meeting Rooms の会議に接続する方法を指定します。たとえば、パラメータを `WebExOnly` に設定し、ユーザがミーティング招待で、ミーティングへの参加タブを選択した場合、Cisco Webex を使用して、会議に接続します。

Cisco Collaboration Meeting Rooms の会議招待タイプを指定します。

- `BridgeOnly` : 参加ボタンをクリックすると、SIP を使用して会議に参加することになります。
- `WebExOnly` : 参加ボタンをクリックすると、Cisco Webex を使用して会議に参加します。
- 定義なし : 参加ボタンをクリックすると SIP を使用して会議に参加し、リンクをクリックすると Cisco Webex を使用して会議に参加します。

例: `<ConfMediaType>WebExOnly</ConfMediaType>`

Disable_Meeting_SSO_Browser_Cache

Mac 版 Cisco Jabber に適用されます。

ミーティング SSO SessionTicket のブラウザキャッシュを有効または無効にするユーザを指定します。

- `true` : ブラウザキャッシュを無効にします。
- `False` (デフォルト) : ブラウザキャッシュを有効にします。

DisableClientConfigExchangeServer

Windows 版 Cisco Jabber と Mac 版 Cisco Jabber に適用されます。

`InternalExchangeServer` および `ExternalExchangeServer` のクライアント設定を無効にし、TFTP サーバー上で `InternalExchangeServer` と `ExternalExchangeServer` を強制的に使用するようになります。

- `true` : `InternalExchangeServer` および `ExternalExchangeServer` のクライアント設定を無効にします。
- `false` (デフォルト) : `InternalExchangeServer` および `ExternalExchangeServer` のクライアント設定を有効にします。

例 :

`<DisableClientConfigExchangeServer>true</DisableClientConfigExchangeServer>`

DockedWindowPosition

Windows 版 Cisco Jabber に適用されます。

ユーザの画面でのドック ウィンドウの位置を設定します。

- TopCenter (デフォルト) : ドックウィンドウが画面の中央上部に配置されます。
- TopLeft : ドック ウィンドウが画面の左上に配置されます。
- TopRight : ドック ウィンドウが画面の右上に配置されます。

例 : `<DockedWindowPosition>TopLeft</DockedWindowPosition>`

DockedWindowVisible

Windows 版 Cisco Jabber に適用されます。

クライアント起動時にドック ウィンドウを表示するかどうかを指定します。

- true (デフォルト) : クライアントの起動時に、ドック ウィンドウが表示されます。
- false : クライアント起動時にドック ウィンドウは表示されません。

例 : `<DockedWindowVisible>>false</DockedWindowVisible>`

EnableBridgeConferencing

すべての Cisco Jabber クライアントに適用されます。

クライアントで [自分の会議サービスを使用 (Use My Conference Service)] オプションを使用できるかどうかを指定します。

- true : クライアントで [会議サービス (Conference service)] オプションが表示されます。
- false (デフォルト) : クライアントで [会議サービス (Conference service)] オプションが表示されません。

例 : `<EnableBridgeConferencing>>true</EnableBridgeConferencing>`

EnableCalendarIntegration

モバイルクライアント向け Cisco Jabber に適用されます。

クライアントでミーティングオプションを使用できるかどうかを指定します。

- **true**: クライアントでミーティングオプションを利用できるようにします。ユーザーのデバイスカレンダーにあるすべてのイベントは、Jabber と統合されます。
- **false** (デフォルト): クライアントでミーティングオプションを使用できないようにします。

例 :

```
<EnableCalendarIntegration>true</EnableCalendarIntegration>
```

EnableLoadAddressBook

モバイル クライアント向け Cisco Jabber に適用されます。

電話機のネイティブ連絡先を Cisco Jabber の連絡先リストにロードするかどうかを指定します。

- **true** (デフォルト): ネイティブ連絡先が Cisco Jabber 連絡先リストにロードされます。
- **false**: ネイティブ連絡先は Cisco Jabber 連絡先リストにロードされません。

例 :

```
<EnableLoadAddressBook>true</EnableLoadAddressBook>
```

EnableProximity

Windows 版および Mac 版 Cisco Jabber に適用されます。

Jabber クライアントが近接対応デバイスに接続し、画面をワイヤレスで共有できるようにします。近接通信は、超音波のリスニングによって有効化されます。超音波の音声は、48KHz のサンプリングレートが必要です。超音波による音声受信機能を有効にするには、マイクのミュートを解除する必要があります。Bluetooth ヘッドセットが使用されている場合、デバイスの検出に影響がある可能性があります。

対応デバイスには、Cisco MX、SX、DX、IX および Cisco Webex Room シリーズエンドポイントがあります。デバイスには、最大接続制限があります。接続が最大接続数に達している場合、他のユーザがデバイスから切断するまで新しいペアリング要求は受け付けません。

- **true** (デフォルト): ユーザを近接対応デバイスとペアリングできます。
- **false**: ユーザは、近接対応デバイスとペアリングすることはできません。

例:

```
<EnableProximity>true</EnableProximity>
```

EnableSaveChatHistoryToExchange

Windows 版、Mac 版 Cisco Jabber、オンプレミスおよび Office 365 展開に適用されます。

クライアントが自動的にユーザの Microsoft Outlook アプリケーションでチャット履歴を Cisco Jabber Chats フォルダに保存できるようにします。

- **true** : チャット履歴を Outlook フォルダに保存できるようにします。

- false (デフォルト) : チャット履歴を Outlook フォルダに保存しません。

例: <EnableSaveChatHistoryToExchange>true</EnableSaveChatHistoryToExchange>

EnableVoipSocket

iPhone および iPad 用 Cisco Jabber に適用されます。



重要 Apple Push deprecating (APNs) が変更されたため、2020 8 月にはこのパラメータは廃止になっています。VoIP ソケットを閉じました。

Jabber が VoIP ソケットを使用して Cisco Unified Communications Manager サーバーとの SIP 接続を設定するかを指定します。Jabber が非アクティブになっていても、Jabber はキープアライブタイマーパラメータを更新して、VoIP ソケットを使用して SIP を登録するために、Cisco Unified Communications Manager のサーバーを再登録します。

APN を使用している場合は、Jabber アプリが非アクティブになっていても Jabber ユーザは、常に Jabber で通話を受信できます。APN を使用していない場合、Jabber のユーザが自分のアプリが非アクティブであっても通話を受信するようにこのパラメータを true に設定します。

Jabber は、iOS によって TCP 接続がタイムアウトになるまで、Cisco UC Manager デバイスページに登録されます。

- true (デフォルト): VoIP のソケットおよびキープアライブタイマーが有効になり、アクティブでない場合でも、Jabber が通話を受信するようになります。
- false: VoIP ソケットとキープアライブタイマーは無効になります。この値は、APN が有効になっている場合にのみ false に設定することを推奨します。このパラメータを false に設定すると、Cisco Unified Communications Manager との SIP 接続がオペレーティングシステムによって制御されている短い時間で終了し、Jabber が非アクティブになります。

パラメータ値が変更された場合、ユーザは Cisco Jabber によって自動的にサインアウトされます。

例: <EnableVoipSocket>true</EnableVoipSocket>

Exchange_UseCredentialsFrom

デスクトップクライアント向け Cisco Jabber に適用されます。

Office 365 の展開では使用できません。

Microsoft Exchange Server に対する認証方式。チャット履歴を Microsoft Outlook フォルダに保存するために、ユーザの次のいずれかのオーセンティケーター引数クレデンシャルを使用して、Exchange クレデンシャルを同期させます。

- CUP : Exchange に IM および Presence Service のクレデンシャルを使用する

- CUCM : Exchange に Cisco Unified Communications Manager のクレデンシャルを使用する
- WEBEX : Exchange に対して Cisco Webex のログイン情報を使用します。

例 : <Exchange_UseCredentialsFrom>CUCM</Exchange_UseCredentialsFrom>.

ExchangeAuthenticateWithSystemAccount

Windows 版 Cisco Jabber に適用されます。

Microsoft Exchange Server に対する認証方式。このパラメータは、チャット履歴を Microsoft Outlook フォルダに保存するために、クライアントがサインインユーザのオペレーティングシステムアカウントの詳細を使用して Exchange サーバで認証を受けることができるようにします。この認証方式は、Windows NT LAN Manager (NTLM) セキュリティプロトコルを使用します。

- true (デフォルト) : クライアントは、ユーザのオペレーティングシステムアカウントの詳細を使用して Exchange サーバの認証を受けます。
- false : クライアントは、ユーザのオペレーティングシステムアカウントの詳細を使用して Exchange サーバの認証を受けません。代わりに、ユーザは [オプション (Options)] ダイアログの [Outlook] タブでクレデンシャルを入力する必要があります。

ExchangeModernAuthentication が有効な場合、Jabber は、ExchangeAuthenticateWithSystemAccount を無視します。

例 : <ExchangeAuthenticateWithSystemAccount>>false</ExchangeAuthenticateWithSystemAccount>

ExchangeAutodiscoverDomain

Windows 版、Mac 版 Cisco Jabber およびオンプレミス展開に適用されます。

クライアントが Exchange サーバを検索するために使用するドメインを指定します。これは、Exchange サーバのドメインがユーザのクレデンシャルのドメインと異なるときに使用されます。

Exchange Server を検出するドメインとしてパラメータの値を定義します。クライアントは、このドメインを使用して、次の Web アドレスのいずれかで Exchange サーバを検索します。

```
https://<domain>/autodiscover/autodiscover.svc
```

```
https://autodiscover.<domain>/autodiscover/autodiscover.svc
```

ExchangeModernAuthentication が有効な場合、Jabber は、ExchangeAutodiscoverDomain を無視します。



(注) Jabber は 次の順序で、Microsoft Exchange サーバーディスカバリパラメータを優先付けます。

1. EmailAsExchangeDiscoverDomain
2. ExchangeAutodiscoverDomain
3. ExchangeDomain

例 : <ExchangeAutodiscoverDomain>domain</ExchangeAutodiscoverDomain>

ExchangeDomain

デスクトップクライアント向け Cisco Jabber に適用されます。

Microsoft Exchange サーバー のドメインを指定します。このパラメータは Exchange_UseCredentialsFrom パラメータと連携して次の例のように機能します。

- Exchange_UseCredentialsFrom = CUCM (ユーザ名の形式は username@domain.com)
- ExchangeDomain = otherdomain.com
- この場合、username@otherdomain.com が Exchange サーバとの認証に使用されます。

このパラメータは次のシナリオで使用します。

- Exchange サーバと Cisco Unified Communications Manager にそれぞれ異なるドメインを使用している場合。
- 10.5 よりも前のリリースの Cisco Unified Communications Manager を使用しており、Office 365 との認証を行う場合。10.5 よりも前の Cisco Unified Communications Manager では、クレデンシャルにドメインが含まれていませんが、Office 365 への認証ではドメインが必要です。このパラメータを使用して Exchange サーバのドメインを設定します。



(注) Windows 版 Cisco Jabber に関して、ExchangeAuthenticateWithSystemAccount パラメータが true に設定されている場合、このパラメータに影響はありません。



(注) Jabber は 次の順序で、Microsoft Exchange サーバーディスカバリパラメータを優先付けます。

1. EmailAsExchangeDiscoverDomain
2. ExchangeAutodiscoverDomain
3. ExchangeDomain

ExchangeModernAuthentication

デスクトップクライアント版 Cisco Jabber に適用されます。

Jabber が Exchange サーバーの認証に先進認証を使用するかどうかを決定します。

Office 365 の展開で、Exchange サービスに対する Office 365 自動検出 および 先進認証を有効にする場合は、キーを true に設定します。

ExchangeModernAuthentication が有効な場合、Jabber は、ExchangeAuthenticateWithSystemAccount、ExchangeAutodiscoverDomain、InternalExchangeServer および ExternalExchangeServer のパラメータを無視します。

- true: 先進認証が有効になります。
- False (デフォルト): 先進認証は無効になります。

```
<ExchangeModernAuthentication>true</ExchangeModernAuthentication>
```

ExternalExchangeServer

デスクトップクライアント向け Cisco Jabber に適用されます。

Exchange サーバのアドレスを指定します。クライアントは、チャット履歴を Outlook フォルダに保存するときに、このサーバを使用します。

ExchangeModernAuthentication が有効な場合、Jabber は、ExchangeAuthenticateWithSystemAccount を無視します。

例 : <ExternalExchangeServer>external_exchange_server</ExternalExchangeServer>

HeadsetPreference

Windows 版および Mac 版 Cisco Jabber に適用されます。

Cisco Jabber が、デバイスの優先順位リストの上位または階に新しい音声デバイスを追加するかどうかを指定します。デバイスの優先順位は、音声デバイスの **詳細設定** で表示されます。

- PreferNewDevice (デフォルト): Cisco Jabber はリストの上位に新しい音声デバイスを追加し、それを優先デバイスとして認識します。
- PreferOldDevice: Cisco Jabber は、リストの下位に新しい音声デバイスを追加し、設定した優先デバイスは変更されません。



(注) このパラメータは、廃止された HeadsetPreferenceOnVDI パラメータを置き換えます。

例：

```
<HeadsetPreference>PreferOldDevice</HeadsetPreference>
```

InternalExchangeServer

デスクトップクライアント向け Cisco Jabber に適用されます。

サーバアドレスの指定方式。チャット履歴を Outlook フォルダに保存するために、手動で内部 Exchange Server を定義します。

ExchangeModernAuthentication が有効な場合、Jabberは、InternalExchangeServer を無視します。

例：<InternalExchangeServer>Internal_exchange_server</InternalExchangeServer>

lastselectedline

Windows 版および Mac 版 Cisco Jabber に適用されます。

複数回線の電話機で最後に選択された回線を指定します。

例：

```
<lastselectedline>Line3: 332102</lastselectedline>
```

Location_Enabled

デスクトップクライアント向け Cisco Jabber に適用されます。

Windows 版 Cisco Jabber に適用されます。

ロケーションタブを Jabber 設定で表示するかしないかを指定します。ロケーションタブは、ロケーション関連の設定に使用されます。

- true (デフォルト) : クライアントで [ロケーション (Location)] タブが表示されます。
- false : クライアントで [ロケーション (Location)] タブが表示されません。

例：<Location_Enabled>>false</Location_Enabled>

LOCATION_MATCHING_MODE

デスクトップクライアント向け Cisco Jabber に適用されます。

Windows 版 Cisco Jabber に適用されます。

クライアントがロケーション機能の現在のネットワークロケーションを検出する方法を決定します。

- **MacAddressOnly** (デフォルト) : クライアントはネットワーク デフォルト ゲートウェイの MAC アドレスを使用します。
- **MacAddressWithSubnet** : クライアントはデフォルト ゲートウェイのサブネット アドレスと MAC アドレスの一意のペアを使用します。

例 : <LOCATION_MATCHING_MODE>MacAddressWithSubnet</LOCATION_MATCHING_MODE>

Location_Mode

デスクトップ クライアント向け Cisco Jabber に適用されます。

Windows 版 Cisco Jabber に適用されます。

ロケーション機能を有効にするかどうか、および新しいロケーションの検出時にユーザに通知するかどうかを指定します。

- **ENABLED** (デフォルト) : ロケーション機能がオンになります。新しいロケーションの検出時にユーザに通知されます。
- **DISABLED** : ロケーション機能がオフになります。新しいロケーションの検出時にユーザに通知されません。
- **ENABLEDNOPROMPT** : ロケーション機能がオンになります。新しいロケーションの検出時にユーザに通知されません。

例 : <Location_Mode>DISABLED</Location_Mode>

MacCalendarIntegrationType

Mac 版 Cisco Jabber に適用されます。

このパラメータは、Meetings_Enabled パラメータと連携して、Jabber と統合するカレンダーのタイプを指定します。

- **0** : クライアントのミーティングタブでカレンダーの統合を無効化します。このパラメータを無効にすると、ミーティングタブは、クライアントに残りますが、空欄となります。
- **1** (デフォルト): クライアントのミーティングタブで、Microsoft Outlook カレンダーの統合を有効化します。
- **2** : クライアントのミーティングタブで、Mac カレンダーの統合を有効化します。
- **3** : クライアントのミーティングタブで、Google カレンダーの統合を有効化します。

例: <MacCalendarIntegrationType>2</MacCalendarIntegrationType>

multiline1_ringtonename ~ multiline8_ringtonename

Windows 版および Mac 版 Cisco Jabber に適用されます。

複数回線の電話機の特定の回線に使用する呼出音を指定します。最大8本の回線の着信音を指定できます。

例: 次の例では、電話機の3番目の回線の着信音を設定します。

```
<multiline3_ringtonename>Playful</multiline3_ringtonename>
```

RefreshCustomTabsOnNetworkChange

適用対象: デスクトップクライアント

ネットワークの問題が原因で読み込むことができなかったカスタムタブを Jabber で更新するかどうかを指定します。

- **true**: Jabber は、ネットワークが変更されたときにロードエラーが発生したカスタムタブを更新します。
- **false** (デフォルト): Jabber は、ネットワークが変更されたときにロードエラーが発生したカスタムタブを更新しません。

例: `<RefreshCustomTabsOnNetworkChange> true <RefreshCustomTabsOnNetworkChange>`

SaveChatHistoryToExchangeOperationMode

デスクトップクライアント向け Cisco Jabber に適用されます。

EnableSaveChatHistoryToExchange パラメータを置き換えます。

ユーザが、ユーザの Microsoft Outlook アプリケーションでチャット履歴を Cisco Jabber Chats フォルダに保存できるかどうかを指定します。

- **DisabledByPolicy** (デフォルト) : ユーザはチャット履歴を Microsoft Outlook に保存できません。チャットセッションを Microsoft Outlook の「Cisco Jabber チャット」フォルダに保存するオプションはクライアントでは非表示になります。
- **EnabledByPolicy** : チャットは Microsoft Outlook に保存されます。チャットセッションを Microsoft Outlook の「Cisco Jabber チャット」フォルダに保存するオプションは、クライアントで表示されますが、ユーザーはアクセスできません。



(注) このオプションでは、クライアントを Exchange サーバで認証するための認証方式をセットアップする必要があります。シングルサインオンを使用した認証、またはクレデンシャルの同期による認証を選択できます。詳細については、『*On-Premises Deployment for Cisco Jabber*』を参照してください。

- **DisabledByDefault** : ユーザがチャットを Microsoft Outlook に保存できます。 **Microsoft Outlook の [Cisco Jabber チャット] フォルダにチャットセッションを保存する** オプションは、クライアントでオフになっていますが、ユーザーは変更できます。
- **EnabledByDefault** : ユーザがチャットを Microsoft Outlook に保存できます。 **Microsoft Outlook の [Cisco Jabber チャット] フォルダにチャットセッションを保存する** オプションは、クライアントでオフになっていますが、ユーザーは変更できます。
- **OnPremOnlyByPolicy**: Jabber が社内ネットワーク上にある場合のみ、チャットは、Microsoft Outlook に保存されます。 Jabber は、MRA 上のチャットを Outlook に保存しません。 [オプション (Options)] メニューの [Outlook] タブに [チャット履歴を Microsoft Outlook の "Cisco Jabber Chats" フォルダに保存します (Save chat sessions to "Cisco Jabber Chats" Folder in Microsoft Outlook)] オプションが表示されますが、グレー表示でありユーザーはこのオプションを変更できません。
- **OnPremOnlyByDefault**: Jabber が企業ネットワークにある場合のみ、チャットを Outlook に保存できるオプションが利用可能です。 Jabber は、MRA 上のチャットを Outlook に保存しません。 [オプション (Options)] メニューの [Outlook] タブで [チャット履歴を Microsoft Outlook の "Cisco Jabber Chats" フォルダに保存します (Save chat sessions to "Cisco Jabber Chats" Folder in Microsoft Outlook)] オプションがオンになっていますが、ユーザーはこれを変更できます。

例 :

```
<SaveChatHistoryToExchangeOperationMode>EnabledByDefault</SaveChatHistoryToExchangeOperationMode>
```

Set_Status_Away_On_Inactive

Windows 版 Cisco Jabber に適用されます。

ユーザーが非アクティブになったときにアベイラビリティステータスを [退席中 (Away)] に変更するかどうかを指定します。

- **true** (デフォルト) : ユーザが非アクティブになると、アベイラビリティステータスが [退席中 (Away)] に変更されます。
- **false** : ユーザが非アクティブになっても、アベイラビリティステータスは [退席中 (Away)] に変更されません。

例 : <Set_Status_Away_On_Inactive>>false</Set_Status_Away_On_Inactive>

Set_Status_Away_On_Lock_OS

Windows 版 Cisco Jabber に適用されます。

ユーザがオペレーティングシステムをロックしたときにアベイラビリティステータスが [退席中 (Away)] に変更するかどうかを指定します。

- true (デフォルト) : ユーザがオペレーティングシステムをロックすると、アベイラビリティステータスが [退席中 (Away)] に変更されます。
- false : ユーザがオペレーティングシステムをロックしても、アベイラビリティステータスは [退席中 (Away)] に変更されません。

例 : `<Set_Status_Away_On_Lock_OS>>false</Set_Status_Away_On_Lock_OS>`

Set_Status_Inactive_Timeout

デスクトップクライアント向け Cisco Jabber に適用されます。

ユーザが非アクティブになった場合にアベイラビリティステータスが [退席中 (Away)] に変更される前の時間を分単位で設定します。

デフォルト値は 15 です。

例 : `<Set_Status_Inactive_Timeout>10</Set_Status_Inactive_Timeout>`

ShowContactPictures

Cisco Jabber Windows クライアントに適用されます。

連絡先リストに連絡先画像を表示するかどうかを指定します。

- true (デフォルト) : 連絡先リストに連絡先写真が表示されます。
- false : 連絡先リストに連絡先写真が表示されません。

例 : `<ShowContactPictures>>false</ShowContactPictures>`

ShowOfflineContacts

Windows 版 Cisco Jabber およびモバイルクライアントのみに適用されます。

連絡先リストにオフラインの連絡先を表示するかどうかを指定します。

- true (デフォルト) : 連絡先リストにオフライン連絡先が表示されます。
- false : 連絡先リストにオフライン連絡先が表示されません。

例 : <ShowOfflineContacts>false</ShowOfflineContacts>

ShowTabLabel

デスクトップ クライアント向け Cisco Jabber に適用されます。

デフォルトでは、リリース12.6 では、クライアントはハブ ウィンドウにタブ ラベルを表示しませんでした。ユーザは、設定を使用してタブ ラベルを有効にすることができます。

タブを表示するためのデフォルトの動作を変更する場合は、新しいShowTabLabelパラメータを使用します。使用できる値は次のとおりです。

- true: クライアントがタブラベルを表示します。
- false (デフォルト): クライアントはタブラベルを表示しません。

例: <ShowTabLabel>true</ShowTabLabel>

Start_Client_On_Start_OS

Windows 版 Cisco Jabber に適用されます。

オペレーティングシステムの起動時に、クライアントを自動的に起動するかどうかを指定します。

- true : クライアントは自動的に起動されます。
- false (デフォルト) : クライアントは自動的に起動されません。

例 : <Start_Client_On_Start_OS>true</Start_Client_On_Start_OS>

StartCallWithVideo

すべての Cisco Jabber クライアントに適用されます。

ユーザがコールするときにコールが開始する方法を指定します。コールは、音声のみ、または音声とビデオにより開始できます。

- true (デフォルト) : コールは常に音声とビデオで開始されます。
- false : コールは常に音声のみで開始されます。

例 : <StartCallWithVideo>false</StartCallWithVideo>



重要 サーバの設定は、このクライアントの設定ファイルのパラメータよりも優先されます。ただし、ユーザがクライアントのユーザインターフェイスでデフォルトのオプションを変更した場合、その設定はサーバとクライアントの両方よりも優先されます。

Cisco Unified Communications Manager リリース 9.x 以降の場合

1. [Cisco Unified CM の管理 (Cisco Unified CM Administration)] インターフェイスを開きます。
2. [システム]>[エンタープライズパラメータ] を選択します。
3. [ビデオを使用してコールを開始しない。] パラメータの値を設定して、[保存] を選択します。

UseBridgeForConferenceCalls

すべてのクライアントに適用されます。

ユーザが会議ブリッジを使用して会議コールを発信できるかどうかを指定します。

- true (デフォルト) : ユーザに対して [自分の会議サービスを使用 (Use My Conference Service)] が表示されます。
- false : ユーザに対して [自分の会議サービスを使用 (Use My Conference Service)] は表示されません。

例 : <UseBridgeForConferenceCalls>false</UseBridgeForConferenceCalls>

UserBridgeUriAdmin

すべてのクライアントに適用されます。

クライアントの会議サービスのパターンを指定します。たとえば、パターンが %%uid%%@example.com に設定され、ユーザ Adam McKenzie のユーザ ID が amckenzie である場合、会議サービスは自動的に amckenzie@example.com に設定されます。このパラメータは、EnableBridgeConferencing と一緒に使用します。

例 : <UserBridgeUriAdmin>%%uid%%@example.com</UserBridgeUriAdmin>